

2022 年度4月及び 10 月入学  
 金沢大学大学院法学研究科(修士課程)  
 第2期募集 入学試験問題

( 2枚のうち 1枚目)

専攻名	法学・政治学専攻	選抜区分	一般
試験科目	政策過程論		

以下の4つの問題に答えなさい。

(4問すべて解答すること。各解答の冒頭に問題の番号を明記すること。)

問題1

日本の自治体は、屋外広告物規制や、「屋内」広告物の規制、色彩基準設定、野立看板の推奨デザインの設定等、複数の規制施策を組み合わせながら、地域の景観保護・改善に取り組んでいる。ただし、各自治体が景観の保護・改善にあたって実施している施策の総数はまちまちであり、5 つ以上の施策を実施している自治体もあれば、1 つの施策しか実施していない自治体もある。

そこで、A 大学の B 教授は、なぜ自治体によって景観保護施策総数が違うのか、何が施策総数を規定しているのかを明らかにすべく、300 の自治体(市町村)を対象に、施策総数を従属変数、景観保護に関する条例制定の有無、自治体の担当職員数、担当職員と景観保護 NPO 団体との接触頻度、議会での関連質問数の 4 要因を独立変数とした重回帰分析を行った。その分析結果をまとめたものが下記の表 1 である。この表 1 にもとづいて考えた場合、自治体の景観保護施策の総数を規定している要因は何であるか説明しなさい。また、各要因が施策総数に与えていると考えられる影響力の大きさについても、表 A の結果にもとづき言及しなさい。

表 1 景観保護施策の総数を従属変数とした重回帰分析の結果

	偏回帰係数	標準化係数	有意確率
景観保護に関する条例制定の有無	1.471	0.254	0.000
自治体の担当職員数 (人)	0.273	0.275	0.002
景観保護NPO団体との接触頻度 (回)	0.528	0.086	0.166
議会での関連質問数 (問)	0.132	0.102	0.029
定数項	0.065		1.502
$N$	300		
$R^2$	0.440		

(※ A 大学の B 教授による上記の分析結果(表 1)は架空のものである。)

2022 年度4月及び 10 月入学  
金沢大学大学院法学研究科(修士課程)  
第2期募集 入学試験問題

( 2枚のうち 2枚目)

専攻名	法学・政治学専攻	選抜区分	一般
試験科目	政策過程論		

問題2

C 市では、マンションやホテル等の建設増加に伴い、歴史的な日本建築物が相次いで取り壊されていた。このような状況に対し、マンションやホテルの建設に反対していた C 市の住民が、歴史的建造物の現状保存を求める市民運動を起こし、市長に対して景観保護についての陳情を行った。陳情を受けた市長は、景観保護のための条例制定に向けて検討を行うよう、市の担当部局に指示を行い、地元大学と C 市での共同調査や、また条例案となる具体的な法制度、景観保護のための技術的手段についての検討が開始された。その結果として、検討開始から 1 年後に歴史的建造物を保存するための景観条例案が策定され、市議会での審議を経て当該条例が成立した。

以上のような C 市の景観条例成立の過程を、キングダム(John W. Kingdon)が提唱した「政策の窓モデル」の枠組みで説明しなさい。

問題3

X 大学の Y 教授は、Z 県が実施している職業訓練プログラムの効果を測定したいと考えている。そこで、Z 県の職業訓練によって実際に訓練受講者の技能が向上し、就職に結びついているかを検証するためのランダム化比較実験(RCT)を行うことにした。実験参加者数 200 人で、就職率を従属変数、職業訓練プログラムの受講の有無を独立変数とする場合、どのような実験デザインが理想的と考えられるか具体的に述べなさい。なお、解答に際しては、「介入群」と「対照群」という用語を必ず用いなさい。

問題4

アリソン(Graham T. Allison)が自身の著書である *Essence of Decision* (邦語訳『決定の本質』)の中で示した「合理的行為者モデル」、「組織過程モデル」、「政府内政治モデル」という 3 つの分析視角の特徴を、各モデルの違いがわかるように説明しなさい。